

天溪 2016 年「モンブラン・マッターホルン縦走 10 日間」

7 月 11 日発

「モンブラン・マッターホルン縦走 10 日間」を 7 月 11 日～7 月 20 日及び 7 月 20 日～7 月 29 日の 2 回続けて行いました。夏のオートルートはスイスのアローラから北へ大きく迂回するのに対し、ツールドマッターホルンのルートに合流して反対の南へ向かい、国境を越えてイタリアへ。チェルビニアから再び国境を越えスイスのツェルマットを目指す、どちらかと言えばスキー（冬）のオートルートに近く直線的なルート。このルートを歩くと既に天溪オートルートを走破された皆様はオートルートとツールドマッターホルンの両方を走破した事になり、正に一石二鳥のコースです。

この度は両ツアー共に天候の激変が有ったにも拘らず、全員が途中棄権することなく無事に走破し、素晴らしいアルプス最深部のハイキングを楽しんでいただきました。



(モンテ・チェルビーノ 7/17 日)

○プラフルーリ小屋へ

ジュネーブ空港に降り立つと 30 度を超える暑さと雷の祝砲、これからの天候が危ぶまれました。私的経験からアルプスで雷が鳴ると数日天気がぐずつく様な気がします。案の定、翌朝は小雨、その後も止むことなくシャモニでは珍しい雨脚に。そんなことで軟弱にもハイキングを止め、美味しいピザの昼食を取ってから車でモンフォーへ向け出発しました。

今年のアルプスは先の「スイスアルプスハイキング」でもお伝えした通り近年稀な残雪量。2 日目シューの科尔から見おろしたルビュー・プラフルーリ方面は白一色の雪野原。啞然とさせられ安全策を取ってベルビエに引返し、車でディス湖ダムサイトのディクセンへ移動後、プラフルーリ小屋を目指しました。

何気なく見たゴンドラ乗り場の天気予報に気になる事が、明日は標高 3400m でマイナス 7 度。



(シューの科尔から 7/13 日)



○アローラへ

夕食時、プラフルーリのスタッフが天気予報を発表、‘夜半に積雪有り、明日は午後スノーstorm’。冗談だろうと思っていたらその後も訂正なし、今日は7月13日です?? 予報的中10cmの積雪で、下の写真は7:10分出発時の模様、どう見ても冬山です。一応、ルーの科尔まで登って様子見としましたが、流石にこの時期日当たりの良い南斜面は積雪が少なくアローラ行を決行。ただ気掛かりは天気予報のスノーstorm、いくら何でも吹雪は無いと思いましたが午後やはり雪降りに。後で聞いたところ、この日は何と標高1800mまで雪の予報が出ていたそうです。



(プラフルーリ小屋出発 7/14日)



○アローラ氷河を越えて

今日からの4日間はツールドマッターホルンと同一ルート、しかもそのルートの核心部。2つの氷河を越え、1000mのアップダウンを繰り返す難関にして素晴らしい要所。30年以上シャモニで活躍する国際ガイドの中島さんが同行です。さて、アローラの朝はラッキーにも大逆転の快晴でしたが、吹く風は初冬並みの冷たさ。夏の日差しは強く日陰以外は快適で、アップテンポのスピードでモン・コロンの(3637m)の左側を巻き込みながら、スタートしてから4時間でアローラ氷河の舌端部に到着。普通はモレーン上を歩きますが、今年は残雪多く氷上を2時間半歩いてコロンの科尔(3087m)に到着し、スイスからイタリアへ国境越え。コロンの科尔で厄介な箇所は終わりと気を緩めたのも束の間、思わぬところに落とし穴が。左に切れ落ちた急傾斜の雪渓が行く手を阻み、フィクスロープを張って通過に1時間。午後4時半、漸くナカムリ小屋到着でした。



(アローラ氷河 7/15日)



○ペルッカ小屋へ

この一帯を遠から望むと白一色、すなわち氷河が発達していて寒い所。ナカムリ小屋の出発時は夏と言うのに氷点下。いたるところでトレイルを流れる水が凍り、ツルツルで始末に悪く慎重にパラライエへ向け下りました。標高 2400m 辺りから雪が無くなりお花畑が出現、氷の世界から生き返ったような安らぎを覚えました。標高 2000m のパラライエでスープ等腹ごしらえをしてから出発。カール状のバルコネラ谷を 2 時間ほど進み、直角に左折し標高差 800m の超急坂を一気に詰めてバルコネラのコル (3066m) へ。午前中 900m ほど下りの足を使ったせいかこの登りは中々こたえませんでした。午後 4 時コルに到着して一休み。その時突然アイゼン装着の音が、見れば幅約 200m の雪渓が岩の後ろに隠れ、容易に今日は終わらせてくれません。バルコネラのコルは見晴らしが良く、西にモンブラン、グランコンパン、東にモンテローザを見ることが出来ます。



(ペルッカ小屋手前 7/16日)



○ツェルマットへ

ペルッカ小屋から一気に下り、牛舎の脇を通過して再び尾根に登るとここはシグナナ峠(2441m)でモンテローザが綺麗に見えます。更にトラバース気味に少し下って尾根を巻き込むと突然 'ワオー' モンテ・チェルビーノが飛び込んで来ました。ツェルマットのそれと若干違い、一寸鋭さは有りませんが正に一級品。チェルビニアに一泊し、ケーブルを 3 回乗継いでテオドルパス(3479m)へ、ここはイタリア、スイスの国境です。氷河の上をロープウェー駅のトロッケンシュテークへ下り、シュワルツゼーで途中下車し完歩の祝盃を挙げ、ツェルマットへ向かいました。

※マッターホルンの呼び名 独語:マッターホルン、伊語:チェルビーノ、仏語:セルバン



(快晴のマッターホルン 7/18日)



このコースは氷河歩行を伴います。このコースをお考えの皆様はこの地域を十分下調べしてから入山されることをお勧めします。

記 天溪 赤沼